

ボーイスカウト都道府県連盟
県コミッショナー 各位

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟
総コミッショナー 木村 寿 宏

政府の地震調査委員会の発表を踏まえた安全管理と安全教育の徹底について（通知）

地震活動の総合的な評価と中長期的な予測を行う政府の地震調査委員会は5月14日、定例会合を開き、4月20日に青森県で最大震度5強を観測した地震の翌日以降、この周辺では、断層がゆっくりと動きひずみエネルギーを開放する「スロースリップ（ゆっくりすべり）」という現象が加速しており、震源域周辺では、今後マグニチュード7後半に近い地震が起きるポテンシャルはある。」と発表しました。さらに、「近いうちに地震が起こるかは分からないが、十分気をつけて備えを万全にして欲しい。」と呼びかけています。スロースリップ（ゆっくりすべり）は、東日本大震災の前にも見られた現象とされており、これが、地震に直接影響するかはまだよく分かっていないものの、大きな地震のトリガーになる可能性が指摘されています。

スカウト活動は、山間部、河川敷や海辺で行うことも多く、万が一活動中に大地震やそれに伴う土砂災害、津波などが発生した場合、深刻な事態を招く危険性があります。つきましては、日頃から隊指導者には御指導いただいているとは思いますが、改めまして、安全管理と安全教育を徹底するという観点から次の事項を各団あてに周知していただくようお願いいたします。

1. 避難経路・避難場所の事前確認

活動の際には、その周辺の最新のハザードマップを必ず確認してください。万が一に備え、迅速に高台等へ避難できる経路や安全な避難場所を事前に設定し、参加する全ての指導者、スカウトで共有するほか、保護者へも周知してください。

2. 緊急連絡網と必要な備品の再点検

活動中の被災を想定し、指導者間及び保護者への緊急連絡網が確実に機能するか再確認するほか、救急箱、非常食、飲料水、携帯ラジオ、予備バッテリーなどの非常用備品の点検を各隊で行ってください。

3. 集合・解散前後（往復路）における安全確保と対応方針の策定

スカウトの単独行動となる可能性も高い往復路（自宅から集合場所まで、解散から帰宅まで）において発災した場合の対応について、団内で十分に協議し、保護者の意向や家庭の状況に配慮した具体的な方針を策定してください。策定した方針については、必ず事前に全ての保護者へ周知し、緊急時の行動について共通理解を図るようにしてください。

4. 発災時における活動場所での待機（留め置き）と帰宅の判断

発災直後は状況が刻一刻と変化するため、スカウトを現在の活動場所（または避難所）に安全を優先して「留め置く」べきか、速やかに「帰宅」させるべきかの判断が極めて重要となります。まずはスカウトの安全を確保した上で、可能な限り保護者と速やかに連絡を取り合い、現地の被害状況や交通事情を踏まえた上で十分なコミュニケーションを取っ

て対応を決定してください。また、日頃から「保護者への引き渡しルール」について、各家庭と共通理解を深めておくようお願いいたします。

5. スカウトへの安全教育の実施

様々な集会の機会を捉え、地震や津波が発生した際の基本行動（身の安全の確保、津波からの迅速な避難など）について、スカウト年代（部門）に応じた指導を行ってください。「自分の命は自分で守る」意識を日頃から育むことが重要です。

6. 安全を最優先とした「中止」や「変更」の判断

地震活動が活発化している地域での活動、気象庁等から注意報・警報等の発表があった場合、現地の状況に少しでも不安を感じた場合には、決して無理をせず、プログラムの変更、活動場所の変更、あるいは活動の延期・中止の判断をすることに躊躇しないでください。また、結果として何事も起きず、上記のような対応をする必要がなかったと後からわかる場合であっても、安全を最優先に判断した指導者が責められることのないような環境作りにも御配慮ください。

また、8月には第19回日本スカウトジャンボリーが開催されます。「ジャンボリー会場と県連盟域内の往復路で発災した場合」や「ジャンボリー会場自体には影響がなくても、県連盟域内で発災した場合」など様々なケースが想定されます。多くの指導者、スカウトの移動を伴うことから、各県連盟におかれましては、これらの事態を想定した対応方針や連絡体制についても協議していただくようお願いいたします。

大地震はいつ、日本のどこで発生してもおかしくありません。今回の発表を一つの契機とし、対象地域のみならず全ての指導者が改めて自然災害に対する備えを固め、スカウトの命と安全を最優先とした活動を展開していただきますよう重ねてお願い申し上げます。